

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	玉出地域包括支援センター			
提出日	R6	年	6	月 20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設（居場所づくり等）
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
活動テーマ	「明日の元気は出会いから」～元気への一歩につながるまちづくり～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域の見守りや活動の担い手が高齢化し、役割を下られる住民も増えてきた。だが、地域活動はコロナ前の活気を取り戻し、高齢者にとって、社会交流や人との繋がりが、心身の活力を取り戻すきっかけになるのかを実感した。出会いをきっかけにして、今日明日という日々を元気に過ごしたいという前向きな気持ちを住民、専門職が手を携えていく大切さが見えてきた。	
対象	地域住民、ネットワーク委員や民生児童委員	
地域特性	南津守地区は工場跡地にファミリー向けの建売住宅が増えたこともあり、年少人口の増加もみられる。だが一部の市営住宅は低所得者、高齢者の転入が多く、地域との交流も希薄で、孤立化が目立つ。千本地域は認知症と経済的課題を抱えた事例の増加がある。玉出地区は交通至便でスーパー、商店も多く、活気のある地域である一方で、地域の利便性から他区から高齢者が転入するケースも数多く見られる。	
活動目標	地域活動への参加とそこで生まれる交流を通じて、住民の健康への意識、機能の維持向上に繋がる。職員一人一人も住民にとって「良き出会いの人」となるための対応力向上を目指す。	
活動内容 (具体的取組み)	玉出) 国道26号線までのアクセスが難しい高齢者（玉出東地域住民）でも通いやすい百歳体操の場を創設した。 千本) 成南ランチと共同で民生委員と地域課題抽出の会議を行う。ランチ独自事業をベースにリハビリ専門職の協力を得て、新たな健康づくりの場を創設した。 南津守) 市営住宅の自治会長と包括、南津守ランチ、見守り相談室、生活支援コーディネーターが協力し、課題の抱えた世帯の早期発見と見守り体制について協議を行い、集会所の活用について意見交換を行った。また認知症強化型としても同じ活動テーマで企画を検討し、区民向けイベントとして百歳体操、Eスポーツ、ポッチャなど西成区内で盛り上がりを見せている活動を紹介、体験の場や人との交流を持つことの大切さを伝えた講演会も行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	アクセスが難しい、社会資源の少ない地域に絞り込んだアプローチと、地元で知名度のある商店と地域活動に理解のある商店主の協力が奏効し、介護保険サービスの利用に拒否はあった利用者が定期的に通いの場に参加するようになった。認知症啓発区民向けイベントでは、他の包括圏域の独自事業への問い合わせや参加者が増えるなど一定の成果が見られた。	
今後の課題	住民から「こんな場所が欲しい」「こういう活動がしたい」と自ら声を上げることができ、実現のための後方支援ができる体制やノウハウが包括にも必要である。課題を抱えた個別事例に支援に時間を費やすだけでなく、まちづくりを意識した実践力を磨いていかなければならない。特に区民向けイベントの企画においては、「健康づくり＝重度化防止・認知症予防」がより住民にも分かりやすい形で示していかなければならない。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月22日（月）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	人との繋がりがや出会いを大切に、自治会、民生委員、ネットワーク委員など地域の住民からの声を聴き、アクセスが困難な世帯へも通いや交流の場を提供する等、「元気に過ごしたい」という前向きになるまちづくりに取り組んでおり高く評価できる。	